



みんなで作ろう プロジェクト



誰もが住み慣れた場所で、
安心して暮らし続けることができる。
そんな地域をつくるため、大町市内で暮らす
さまざまなみなさんをつなぎ、考え、
そして共に地域を動かすプロジェクトです。

誰もが住み慣れた場所で、
安心して暮らし続けることができる。
そんな地域をつくるため、
大町市内で暮らすさまざまなみなさんと
つながり、考え、
そして共に地域を動かすプロジェクトです。

2025.3.17

アイスブレイク



「自己紹介」と「Good & New」

- ① 氏名
- ② 住んでいるところ
- ③ 参加しようと思った理由など
(新規参加者の方)

24時間以内にあった

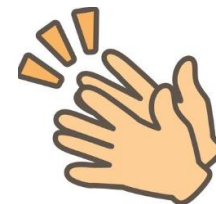


良いこと ・ 新しい発見

を教えてください♪

※ ひとり2分以内でお話してください！

※ ひとりのお話が終わるたびに、グループの全員で拍手！

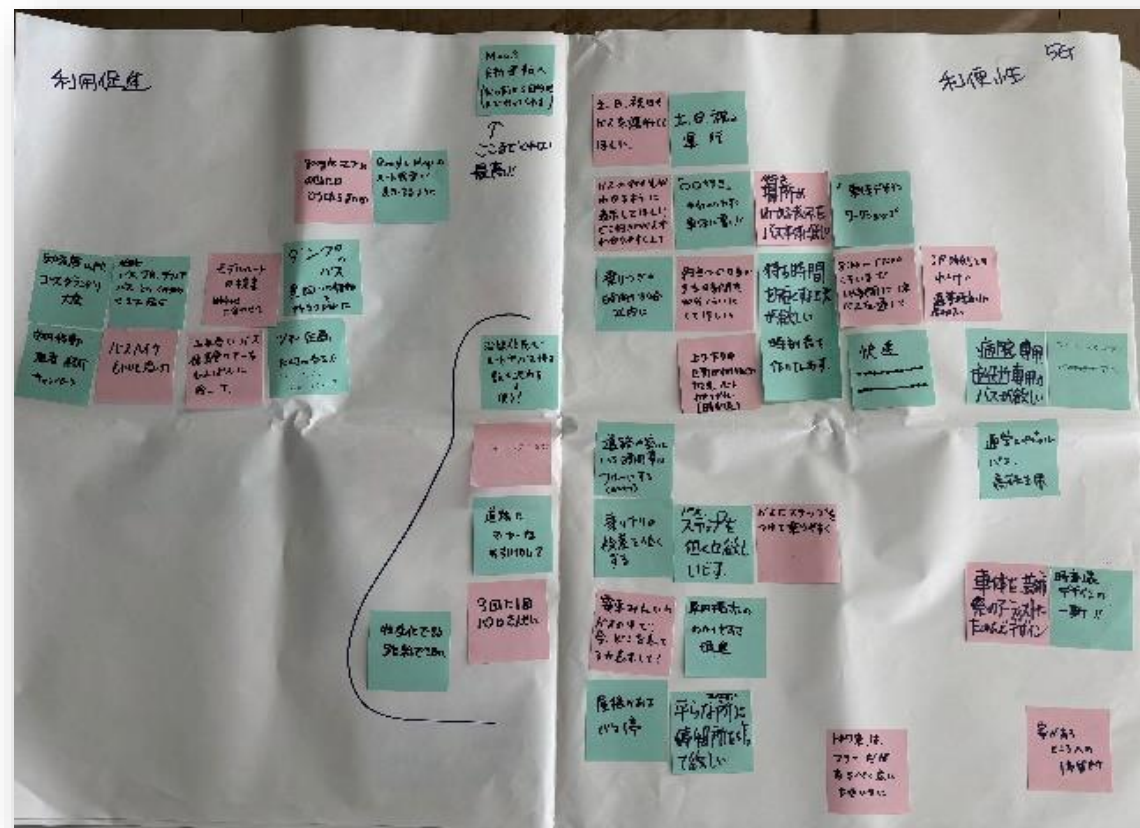


前回のまとめとふり返し ①

ひとりになっても大丈夫!
みんなで考えよう
プロジェクト

1/22開催 参加者：44名

ふれあい号
提言の作成



利便性の向上について

ふれあいバスの
構造や機能的な
改善の提言

利用促進について

知名度の向上、
イメージアップの
ための企画など

利便性の向上について

■ バスの車体への工夫

- ・ 側面に行先を表示
- ・ 色分けされた路線図の色を車体カラーに取入れる
- ・ 大人から子供、外国人でも分かる車内の案内表示
- ・ 乗り降りしやすいバス

■ バスの待ち時間対策

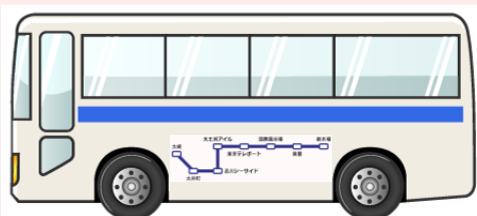
- ・ 時間の使い方、楽しめる場所等の提案

■ バス停に関すること

- ・ 主要な行先（スーパー、病院など）への所要時間、到着時間、戻るまでの時間を誰もが分かる形で明示。

・ 活用例の表示

- ・ 雨、風、日差しをしのげる停留所



① 平(青木方面)コース	■
② 平(源次方面)コース	■
④ 平(高瀬入方面)コース	■
⑤ 常盤清水・西山方面コース	■
⑦ 社・常盤コース	■
⑧ 八坂コース	■
⑨ 八坂地域振興バス	■
⑩ 美麻コース(川手線)	■
⑪ 美麻コース(境の宮線)	■
⑫ 循環線(南コース)	■
⑬ 循環線(北コース)	■

■ バスの運行に関すること

- ・ 自宅前で乗れる（料金変動あり）
- ・ 予約制
- ・ 定期券やパスポート
- ・ デリシアの買い物バスと連携
- ・ 快速バスを設定
- ・ 目的別バスの運行
- ・ 病院(大町・あづみ)への直行便（受診時間を考慮した運行）
- ・ 高校生の通学専用バス（JR乗継を考慮）
- ・ 沿線住民がバス停の場所を決める

利用促進について

■ バス利用方法の紹介

- ・ バスを利用している人の目的や利用方法を、地域の情報として市民に周知
- ・ 乗り継ぎを含めて、目的地別モデルコースを提案。（ターゲット別：高齢者、学生や子供、観光客など）
- ・ 移住者や子育て中で孤立する母親の困りごと、ニーズに寄り添える利用方法の提案

■ 市民バスを選択肢のひとつに

- ・ イベントの日に合わせてバスを利用する
- ・ 通勤に市民バスを利用する日を作る

■ 利用促進企画

- ・ 飲食店と提携してバスを利用して来店した人への特典
- ・ お試しチケット
- ・ お祭りやイベント時に無料運行
- ・ バスの乗車体験会（定期開催、CATV番組化）
- ・ コースグランプリ大会開催
- ・ 自治会単位でバスハイク
- ・ ダンプバス運行（大町駅～扇沢行をアトラクション化）

市民バス「ふれあい号」の最適化・再構築

- ・フリー乗車区間の拡大
- ・目的別バスの運行や快速バスの運行
 - ▷病院への直行便
 - ▷買い物専用便
 - ▷高校生の通学用バス(JR乗継を考慮)
- ・デリシア買い物バスとの連携した運行

illustration ver.

- ・定期券やパスポートを作る。(小銭の利用や小さな回数券を扱わなくても乗れるように)

高齢者にやさしい市民バスの利用環境

- ・ステップの2段目、3段目の高さの確認と改良
- ・車両を小型化し、バスの本数を増便

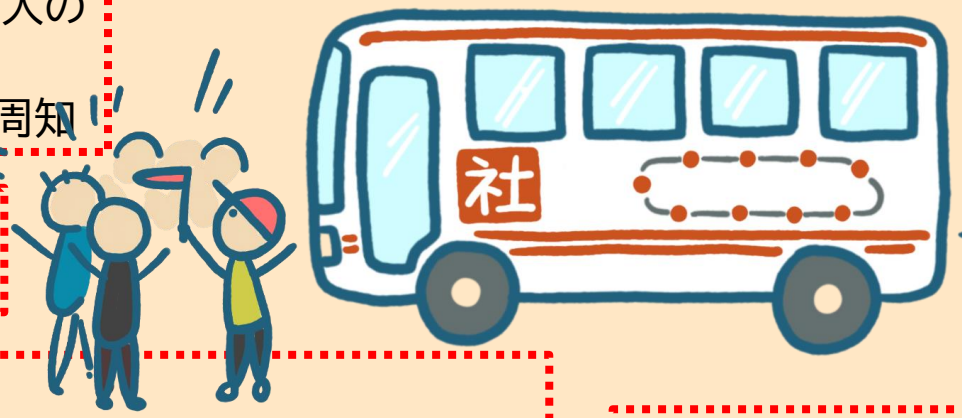
公共交通利用意識の醸成

- ・バスを日常的に利用している人の目的や利用方法の紹介
 - ▷▷▷地域の情報として市民に周知

- ・市民バスのコンシェルジュの募集と発掘

- ・市民バス利用デーの設定
(その日の目的を達成するための移動手段は市民バス)

- ・モデルコース、バス旅グランプリ大会の開催



- ・ポスターの作成(多くの人が利用する場所に掲示)

- ・お店と連携して市民バスを利用して来店した方に割引等の特典を設ける。

- ・バスの待ち時間の使い方や楽しみ方を提案



分かりやすく利用しやすい情報提供

- 時刻表:
バスの待ち時間の活用方法の掲載

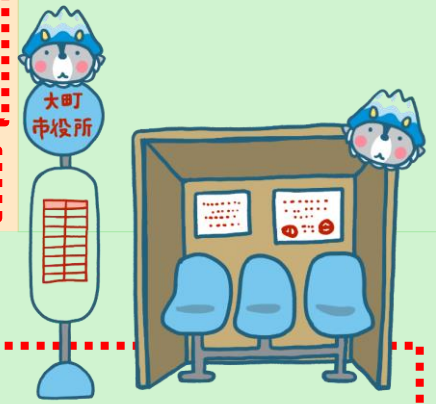
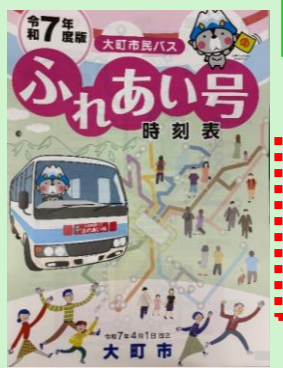
車両:

- ・車両側面に行先を掲示
- ・色分けされた路線図の色を車両カラーに。
- ・車内の案内表示の改善(支払方法、路線図、所要時間など分かりやすく)



停留所:

- ・主要な行先(スーパー、病院、市役所)への所要時間、帰りの乗車案内の表示
- ・利用方法や活用例の表示
- ・雨や風、日差しが凌げる停留所を増やす。



まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成

市民バス「ふれあい号」の 最適化・再構築

「利用者のニーズにあった運行経路やダイヤ等の改善」について、より多くのニーズを把握し、ぜひ改善をお願いします。

「地域内運行やまちづくりと連携した路線の新設など交通形態全体の再構築」に関しては、人を呼び込むことと同時に、この地域の住民にとってより便利な市民バスとして存在していることが理想です。

まちづくりとの連携はとても価値のあることであり、地域のさまざまな声をしっかりとキャッチして、再構築の検討を進めていただきたいです。

【具体的な提案】

■フリー乗車区間の拡大

停留所まで行くのが難しい状況の方がたくさんいらっしゃるので、停留所の増設も含めて、より多くのニーズに応えられる方法の検討をお願いします。

■目的別バスの運行や快速バスの運行

病院への直行便、買い物専用便、高校生の通学用バス（JR乗継考慮）など

■デリシアの買い物サポートバスと連携した運行

より広範囲の人が買い物に行く移動手段を確保できるよう、路線（接続）や時間の検討など

地域で“支え”育てる持続可能な公共交通

公共交通利用意識の醸成

実施主体に、“市民”をぜひ加えてください。そうすることで、まさしく「地域で支え育てる持続可能な公共交通」となることでしょう。

私たちのプロジェクトで、バスハイクを企画し、利用促進のための提案がいくつも生まれました。市民バスが多くの市民の受け皿になり得る公共交通機関として、持続的に運行してもらいたいとの思いから、その利用促進に関して、ぜひ一緒に考えさせてください。

計画策定の目的でもある、「本市の地域特性に合った持続可能な公共交通の構築」には、地域を知る市民と協同することで達成されると考えます。

【具体的な提案】

- ・市民バスのポスターを作成し、多くの人が利用する場所に掲示する。
- ・バスの待ち時間の使い方や、楽しみ方を提案する。
- ・バスを日常的に利用している人の、目的や利用方法の紹介。
(地域の情報として市民に周知する)
- ・市民バス利用デー（利用ウィーク）を個人又は職場ごとに設定し、目的（通勤など）を達成するための移動手段は、市民バスという日を作る。
- ・モデルコースグランプリ大会の開催。
- ・市民バス“コンシェルジュ”の募集と発掘。
- ・アプリの活用等の検討と合わせ、定期券やパスポート導入の検討。（小銭や小さな回数券を扱わなくても乗れるように）
- ・お店と連携し、市民バスを利用した来店した方に割引券等の特典を設ける。



高齢者にやさしい 市民バスの利用環境



『バス乗降時の負担を軽減』『低床型車両の導入』：

“みんなで考えようプロジェクト”におけるバスの乗車体験を通して、バスのステップについて、同意見がいくつかがありました。ステップが搭載されていて、非常に助かるという声と同時に、2段目3段目のステップに高さがありすぎるという内容です。ぜひ、高さの確認と改良をお願いします。

『車両の小型化の検討』：

調査・研究を通じて、利用者の少ない路線や時間帯などの把握を行い、車両を小型化すると同時に、その分バスの便数を増やせないかの検討をお願いします。多くの方が利用する路線の便数を増やすことも大事ですが、少数人でも移動に困る人がいるのであれば、そのニーズに合わせたバスの運行（不定期便または予約便）を実施することも必要と考えます。

分かりやすく利用しやすい情報提供

「利用方法や停留所、運行車両等に案内掲示を行う」ことについて

令和7年度版の「大町市民バスふれあい号」時刻表は、フルカラー印刷であるのに加え、内容が充実し、見やすく活用しやすく改善されていることに感服いたしました。“みんなで考えようプロジェクト”にて出た意見が、ほぼ全て取り入れられており、フィールドワークとして実施したバス乗車体験でのモデルコースが、使い方の一例としても掲載されておりました。

その他、掲載内容の提案や、停留所・車両への提案は以下のとおりです。

【具体的な提案】

■時刻表への利用方法の掲載

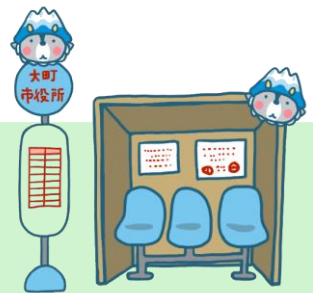
- ・バスの待ち時間の活用方法の掲載
(バスの乗り継ぎ等、長い待ち時間があることが多いため、その間の時間の使い方について提案したもの)
- ・バスを日常的に利用している人の特集ページ（事例紹介）

■停留所

- ・主要な行先（スーパー、病院、市役所）への所要時間、帰りの乗車案内の表示
- ・利用方法や活用例の表示
※限られたスペースだが、多くの情報が得られるよう見やすい表示に。
- ・雨や風、陽差しを凌げる停留所の増設

■車両

- ・車両側面に行先を提示
- ・色分けされた路線図の色を車両カラーに使用
- ・車内の案内表示の改善（支払方法、路線図、所要時間など分かりやすく）



市民バス「ふれあい号」への提言

ふたりに
なっても
大丈夫!

みんなで考えよう
プロジェクト



大町市地域公共交通計画(案)に対するパブリックコメント
が実施されていきました。(公募期間:R7.2.6~3.7)

それに合わせて、「みんなで考えようプロジェクト」で
まとめた市民バス「ふれあい号」に対する提言を、意見
として提出してまいりました。



@大町市総合情報センター

ゆるBASE ALPおっさんの会・Team ALP 代表 向井さんの活動紹介

みんな
みんなで考えよう
プロジェクト



・ALPおっさんの会は、2023年4月からスタートした「男性の居場所づくりの会」。5つの市町村から40歳代～96歳までの41名がメンバーとして参加しています。

・いきいきと生活していくことを目的に、循環型のプロジェクトを行っており、2025年1月現在で、延べ約2,400人の方が関わってくれました。

・活動する中で、移動支援の必要性を実感。
▶イベントに行きたいけれど移動手段がない ▶免許返納するとマレットゴルフや体操教室に行けなどの声を聞く

・移動支援勉強会に参加「住民主体による高齢者の移動・外出支援のしくみ」について学びました。

・昨年7月に開催したイベントに、移動手段がなく送迎を希望している人を募集し、実際に移動支援を実施しました。利用者は1人でしたが「イベントに参加できて楽しかったです。ありがとう。」と喜んでいただきました。

・この「みんなで考えようプロジェクト」の、バスハイクを通して、あづみ病院へ公共交通機関で行くことは大変だが、ニーズはあるのだろうという感覚を得ました。

・2025年春以降のスタートを目指して、移動支援サービスを始動してみようと、現在準備中です。主には、あづみ病院や大町病院への送迎を考えています。

・2024年11月下旬から週3～4日間、7～8名の送迎のお手伝いを、午前2時間・午後2時間をし、送迎の経験を積み重ねています。



前回のまとめとふり返し ②



どんな身体状況でも
あまりお金がかから
ない移動方法



お店や病院側で
の送迎の手配

所得に応じた
タクシー券の
配布

ヒッチハイク

ご近所同士の
乗り合い

基本的人権として移動する権利を保障

→ 市民の義務として納税

→ 移動特区を作り徹底した移動の利便性向上を図る(区域内住民は新たな税金を負担)

駅前に市営住宅を作る
(スーパー、銀行、病院が徒歩圏内)



ウーバータクシーの導入(先進地:軽井沢)

移動支援の仕組みづくり

- ・乗せられる人、乗りたい人のマッチングアプリ
- ・支援団体(協議会)のような母体を作り、専用保険を活用し、安心して乗せて乗れるようにする。
- ・登録会費制で運営
- ・人材確保(子育て中のママなど)
- ・車両の確保

セニアカーの
レンタル

タクシー料金の
割引

通所サービス、学校、
企業の車(空き時間)
を活用する

行き先が同じ人との
乗り合いタクシー



みんなまで考えよう プロジェクト

カラダの状態に左右されずお金の負担もかるい移動方法の実現のため
と
今後のプロジェクトについて事務局からの提案



みんなであらう
みんなで考えよう



プロジェクト

ひとりになっても大丈夫、自分らしく住みなれた場所で暮らし続けるために、みんなで考えようプロジェクトを始めて2年
多くの住民の皆さんの参加のもと、この地域に「こんなことがあれば、一人でも自分らしく暮らすことができる。」のアイデアをたくさん出していただき、楽しくも大変意味の多い話し合いをしてきました。

2023年

ちょっとした頼みごとを気軽に手伝ってくれるレンタル青年のアイデアは、名前のインパクトもあり、賛否白熱した話しあいになった。
おせっかいしあえる地域ってどんな地域
夜に楽しく集える場所が欲しいね
そこに出ていくためには融通の利く移動資源がないと。





みんなであらう



プロジェクト

2024年

プロジェクト参加者の多くが必要を感じていた、ゆうずうの利く移動資源車の運転ができなくても困らない地域の仕組みについてみんなであらうてきた。ふれあい号の在り方について、担当者も含めて実際の体験を通して得た意見やアイデアを話し合い、大町市の交通事業計画にパブリック・コメントとして提言を出した。

振り返って

みんなであらうプロジェクトの第1の価値
みんなが一市民の立場で話し合う



そこで生み出される言葉や思い・アイデアを参加したみんなが自分の事として受け止め、またみんなであらう話し合う。

みんなであらう話しあい
考える事でおこる
チカラ



みんなであらう



プロジェクト

2025年

カラダの状態に左右されずお金の負担もかるい、日ごろから気軽に利用できる移動方法の実現にむけて取り組む。

実現するためには2か月に1回の話し合いではなかなか難しい。

(もっとたくさん話し合う必要がある)

実現のための話し合いは「産みの苦しみ」話し合いが楽しくないことも多い。

(きっと)

でも
みんなであらう、話し合うことで生まれるチカラがほしい。
どうしよう？

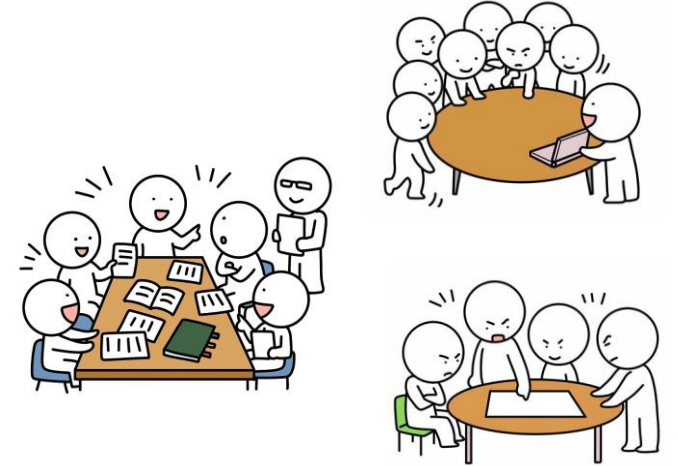
実現にむけた話し合いをべつに作ったほうが良い。



みんなで考えよう



プロジェクト



みんなで考えようプロジェクトの話し合いから生まれる実現にむけて取り組むこと
プロジェクトの種



実現するためのプロジェクト（分科会）を結成。そこで、実現にむけて具体的な話し合いをしていく。

実現したいと思う人は誰でも参加

（たくさん参加してください。）

実現するためのプロジェクト（分科会）での話し合いの経過をみんなで考えようプロジェクトにフィードバック

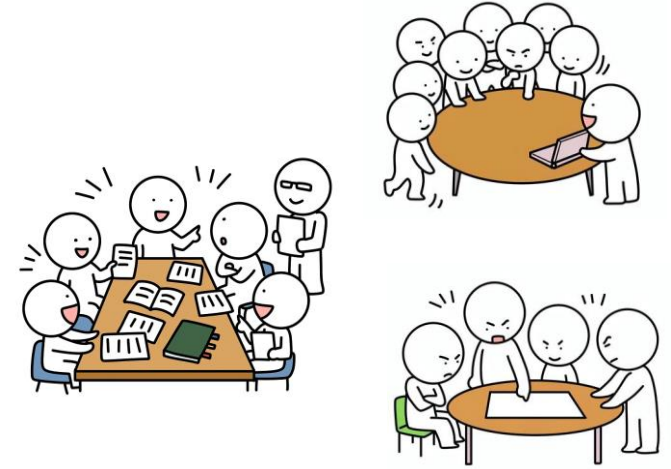
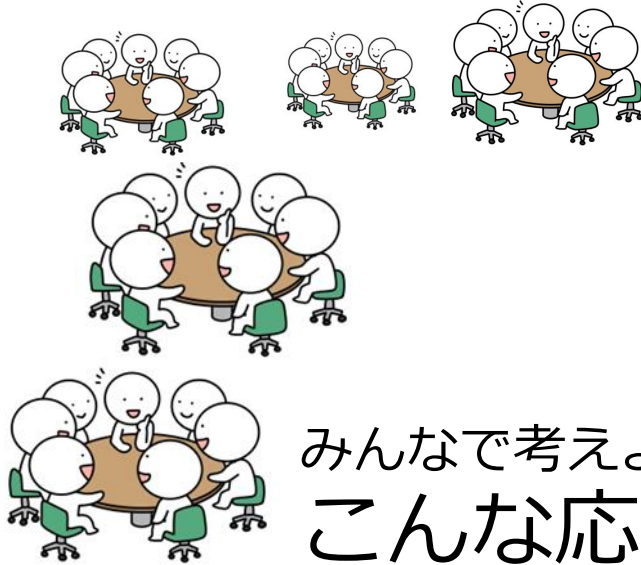




みんなで考えよう



プロジェクト



みんなで考えようプロジェクト
こんな応援ができるよ。
こんなアイデアはどう。



例えば
○×でも大丈夫プロジェクト
○×でも大丈夫な仕組みの実現にむけて
考えてきたけど行き詰った。
みんなの知恵を借りよう

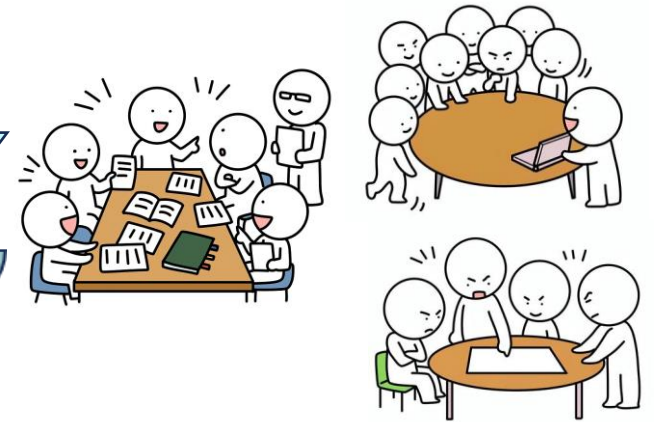
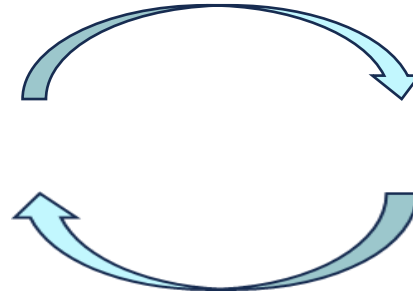
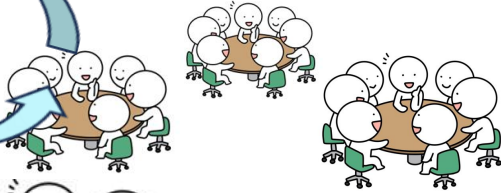
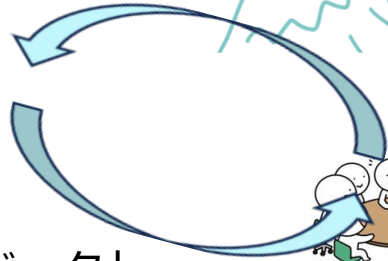


みんなで考えよう

プロジェクト



1 2 3でも大丈夫プロジェクト



Oxでも大丈夫プロジェクト

と 歯 歯でも大丈夫プロジェクト



みんなで考えようプロジェクト



ABCでも大丈夫プロジェクト

■▲でも大丈夫プロジェクト





みんなであらう考えよう



プロジェクト

カラダの状態に左右されずお金の負担もかるい、日ごろから気軽に利用できる移動方法の実現にむけたプロジェクト

運転できなくても大丈夫プロジェクト (仮称)

を分科会として立ち上げようと思います。

ぜひ実現したい。実現にむけて参加したいという方、投票用紙を出入り口にある投票箱に入れてください。(たくさんの方の参加 心より願っております。)

みんなであらう考えようプロジェクトは
どんなことがあっても、全員が自分らしくくらすことが
可能な地域をめざして


みんなであらう考えて言葉をつむぐところ (チカラの源です。)



みんなであらう



プロジェクト

参加したみんなが平等ないち生活者としての思いを、否定されることのない場に出し合い、感想を言い合う。そこで参加したみんなが自分事として受け止めた言葉が実現にむけた取り組みの種  になります。

今日のプロジェクトは
新年度に向けて、このプロジェクトで話し合いたいこと、実現したいことを自由にだしあってください。

ひとりになっても大丈夫!

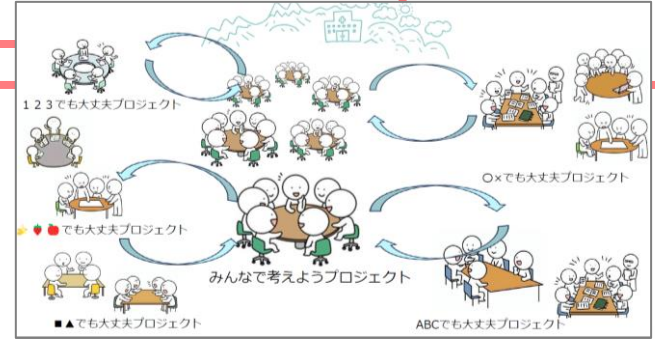
みんなで作ろうプロジェクト

言葉を
つむぐ

- ・ みんなで考えて言葉をつむぐ場所。
- ・ 参加したみんなが、平等ないち生活者としての思いを、否定されることのない場を出し合い、感想を言い合う。
- ・ 自分ごととして受け止めた言葉が、実現に向けて取り組む種になる。

分科会

- ・ 話し合いから生まれる プロジェクトの種
- ・ 実現するためのプロジェクト（分科会）
- ・ 実現したいと思う人はだれでも参加！
- ・ 「みんなで作えようプロジェクト」にフィードバック



移動支援
プロジェクト

運転できなくても大丈夫プロジェクト（仮称）

移動支援のことを一緒に考え、このプロジェクト（分科会）を動かしていくことに興味のある方は、氏名・住所・連絡先を記入し、帰りに専用の箱にお入れください。

ALP
ありがとう
プラチナサービス

たとえ、車は運転できなくなっても、自分のペースで行きたいところに出かけ、自分らしく暮らしたい。

そんな思いを叶えるため、元気でアクティブな「プラチナ世代」の「TEAM ALP」メンバーがドライバーとなり、気軽に相乗りできて、目的地までおしゃべりし、ちょっとしたドライブ気分まで味わえてしまう。そんな移動支援サービスを、はじめます。

やっってもらって「すみません」ではなく、やっつけて「ありがとう」を。

たくさんの「ありがとうの輪」が、これからまちに生まれますように。

お問い合わせ
ゆるBASE・ALPおっさんの会 TEAM ALP
070-8403-5487 3838gakuto@gmail.com (担当：向井)

気軽に話をしましょう！

地域で暮らす
1人の住民として
参加しましょう

否定はせず
共感の気持ちで
持って話に耳を
傾けましょう

対話の時間は
みんなのもの
1人で話続け
ないようにしまし
ょう



そのひと言が
地域を動かす
何かにつながります
遠慮せず話ましょ
う

こんなことができれば
面白そう！

みんなの力で
やってみたいこと

この地域(おおまち)で
実現したいこと

思い浮かんだことをたくさん出し合いましょう！

次回開催日程



候補日

決定!!

5月14日(水)

5月21日(水)

5月15日(木)

5月22日(木)

5月19日(月)

5月27日(月)

5月20日(火)

5月28日(火)

開催時間 : 13時30分~15時30分